



成田空港の誘導路名称が大きく変わります！

2013年11月14日、成田空港の誘導路名称が大きく変わります。これはALPA Japan AGE（飛行場環境）委員会としても長年取り組んできた成果の一端を垣間見ることが出来る内容です。そこで今回、AGE委員会のこれまでの取り組みをご紹介しますと共に、変更当初の注意事項等についてご説明します。

2008年以來、継続して取り組んできた誘導路名称改善の活動

ALPA Japan AGE 委員会は、2009年の羽田空港D滑走路共用に伴う誘導路増設とそれに関連した誘導路名称の見直しに伴い、国内外のパイロットにとって分かりやすい誘導路名称を要望し、現在でも継続しています。特に羽田空港と成田空港は日本のパイロットのみならず、海外のパイロットも多く飛来することから、世界基準の誘導路名称は必須であると考えています。

羽田空港ではD滑走路が供用開始となるタイミング、また成田空港では横風滑走路が誘導路として本格的に利用されることが確定したタイミングでそれぞれ「パイロットにとって分かりやすい誘導路名称」を航空局や成田空港株式会社に要請を行い、現在も継続した取り組みを行っています。

もちろん、その内容はIFALPA AGE CommitteeがTaxiway Naming Policyとして採択された内容に準拠しており、更に現場の声を反映させたものです。なお、そのPolicyは現在、ICAO Annexに採用されるための議論が重ねられています。このようにAGE委員会は「世界基準」の内容をいち早く取り入れた活動を行ってきたのです。

2009年、成田空港ではパイロットにとって「難解な」誘導路名称へ改訂された

上記、IFALPAのTaxiway Naming Policyを航空局へ紹介し、それに基づいた誘導路名称の設定を要請しましたが、その一部のみが採用され、さらに現場のパイロットの声が適切に反映されなかったことから、2009年に成田空港で誘導路名称が変更された際に、RWY16LからRWY16R近くまで「B TWY」が一筆書きのような形が採用されたのは記憶に新しいところです。

この誘導路名称における最大の難点は、「大きく旋回しても誘導路名称が変わらない」ことでした。パイロットは旋回をすると誘導路名称も変更となることで、自分の位置を把握しています。しかしそれが行われないことが混乱の原因となったのです。

これを受けてALPA Japan AGE委員会は、パイロットにとって誘導路名称はどうあるべきなのか、そしてIFALPA Taxiway Naming Policyを正しく理解することの重要性について訴え続けてきました。その結果、一部が改訂されて成田空港ターミナルビルの東側は「TWY E」、西側は「TWY W」に改訂されるなど、一定の改善が見られました。

2013年11月14日、更なる誘導路名称の改訂が実施されます！

2013年11月14日、ターミナルビル南側の誘導路名称（現在のTWY B）が「TWY S」に改訂されます。これによってターミナルビル近隣の主要誘導路は全て方角別の名称となります。

(次頁に続く)

その他、主要誘導路の名称が一新されることで、一部の不具合は解消されました。ただし、直進しているにも関わらず途中で誘導路名称が変わってしまう不具合は解消されていない等、AGE 委員会が求めている、パイロットに分りやすい誘導路名称といえる形になっていない箇所は残っています。

皆さんの声は日本の航空安全に寄与していますか？

世界の航空市場は航空機の大型化や交通量の増大によって滑走路の数が増大し、誘導路も漸増した結果、空港は巨大化しています。その環境下において、管制官が低視程下でも航空機を見失うこと無く適切に管制業務実施出来ることを目的として、Multilateration システムが開発されました。

その一方で、パイロットは誘導路レイアウトの複雑化という不安全事故に直面しています。その安全性を向上させるため、複雑化した誘導路に適切な誘導路名称を付加することはパイロットにとって大変重要です。その観点から、現在の日本の巨大空港において付加されている誘導路名称は適切で理解しやすく、不安全事故要素が取り除かれたものになっているのでしょうか？成田空港は？そして羽田空港は？

不安全事故解消に大切なことは何か？それは「パイロットの生の声」です。しかしながら、パイロットの声を航空行政にしっかりと反映させる仕組みは、残念ながら現在の日本に存在しません。

ICAO Annex 19「Safety Management System」が間もなく批准されます。この中で謳われているのは、空港施設・環境に関わる全ての利害関係者同士によるコミュニケーションの大切さです。それを実行すべく ALPA Japan AGE 委員会は、私たちパイロットの声を正しく空港管理者に伝える仕組みを構築することが急務であると考えています。

今回の新誘導路名称改訂で全てが解決するわけではありません

間もなく成田空港の名称変更を目にし、そしてその変化の大きさを実感するでしょう。その時に覚えておいていただきたいことは以下の通りです。

(1) 記憶に頼らず、チャートを確認し、サインボードを確認して下さい

多くの誘導路名称が変更になっています。記憶に頼らず、確実な地上走行に心がけて下さい。

(2) 誘導路名称変更は安全向上のために不可欠です。

パイロットだけでなく、管制官にとっても分りやすい誘導路名称とするための変更です。頭を切り替える作業が発生することから変更当初は不満を感じるかもしれませんが、是非趣旨をご理解いただき、新しい誘導路名称に慣れて下さい。

(3) 気づいた点を ALPA Japan AGE 委員会にフィードバック下さい

11月14日に施行された名称も、不足点を感じる箇所が数多くあります。その声を是非皆様から直接聞かせて下さい。その声が多ければ多いほど、多方面からの分析が可能となり、より実効的な誘導路名称を策定することが可能となるのです。小さな内容でも構いません。それら全てが力になります。

皆様の声はタイムリーに、そして誰もが簡便に送るシステムが大切だと考えています。そのため、ALPA Japan AGE 委員会は投稿用メールアドレスを準備しています。個人データはもちろん厳重に管理しますし、セキュリティも強化していますので、ご安心下さい。

「airport@alpajapan.org」に、皆様の声を届けて下さい！（もちろん無記名でも結構です）

以上

